

## 伊吹山の歴史文化、エコツーリズム に関する取組方針（修正案）

### （１）歴史文化の再発見

山と関わりながら縄文から連綿と続く山麓の暮らし、山への原始信仰が仏教と結びついて生まれた山岳仏教、東西文化を結びつけた山中の峠道、山麓を駆け抜けた武将たちなど様々な歴史文化の事象について、文献調査、聞き取り調査、現地踏査などを行い、山中に点在する遺跡や古道などの歴史遺産を確認するとともに、伝承や民俗などの文化資源の掘り起こしと記録化を図る。

調査により把握された文化資産について、お花畑の観察と組み合わせた新たな探訪ルートを設定し、伊吹山を舞台とした生活文化の体験学習の素材と活用するなど、地域固有の資産としての定着化を図り、「歴史の山」としての伊吹山をクローズアップしていく。

これら歴史資産の活用の拠点施設として伊吹山文化資料館を位置づけ、この構成員との協働により、幅広い取り組みを展開するほか、学校における伊吹山学習を支援する。

伊吹山麓にある名水百選日本百名水に選定された大清水の泉神社の湧水に代表されるように、豊かに水が湧き出ており、地域の住民の生活や信仰の対象となっている。これらの湧水を伊吹山の恵みと位置づけ、観光や環境学習の資源として活用する。

### （２）地域ぐるみでのエコツーリズムの確立

伊吹山の豊かな自然環境や歴史文化遺産を再発見し、地域住民や地元の環境保全団体と利用者が幅広く交流し、自然環境の保全に配慮しつつ伊吹山とふれあい、その価値について理解できるようなエコツーリズムを確立する。

このため、伊吹山に関する深い知識と経験を有する山麓集落の住民の参画を得たり、山頂部お花畑に対する専門的な知識を有したガイドを育成し、利用者に伊吹山の文化や自然を解説のできる「語り部」として参画を得る。また、自然環境や歴史文化資源を総合的にリンクさせ、人の暮らしと山の自然とが共生した伊吹山文化を享受できる学習プログラムを開発し提供する。エコツーリズムの拠点としては、前述の伊吹山文化資料館や、伊吹薬草の里文化センターなど既存の公的施設を活用す

る。

前述のように、事業者やNPOの協力も得つつ、3合目以上の南斜面のお花畑や自然植生の復元を図るとともに、登山道の維持・修繕をすることによって、登山者およびドライブウェイ駐車場から南斜面に至る観光客が利用できるエコツアールートを整備する。

エコツアーには、地域住民も参加し、内容をより良くするための知恵を出していくとともに、地域住民が伊吹山の価値を再認識できるようにする。さらに、伊吹山に愛着を持ち、自分たちの山は自分たちで守り育てるという意識が生まれ、保全活動へ積極的に参加することを促す。

こども向けの学習プログラムも整備し、地元米原市の児童・生徒の学習の場として活用し、「ふるさとの伊吹山」を誇れ、他地域の人々に伝えられるようにする。

観光業者や観光客に対しては、伊吹山やお花畑の成り立ち、動植物の名称・生態や生息・生育地、自然保護のための課題や自然再生事業の取組内容、知られていない重要な歴史遺産、地域の生活文化、地域住民との交流等を含む学習プログラムを提供して、単なるマストゥーリズムによる行楽ではなく、自然環境と地域社会を理解し学ぶ機会となるようにする。

### (3) 伊吹山ブランドの地産物の発信

伊吹山は日本のそばの発祥地とされている。8合目付近には江戸時代既に山畑の分布が記録されており、太平寺では耕地の約半分がそば畑であったと言われている。また、伊吹大根はねずみ大根、けっからし大根などの名で知られ、そばの薬味としても用いられていた。手掛岩を挟んで左右両側で蕎麦畑と大根畑があったとの記録があり、調査した上でその復活を検討する。また、山野草や地域材を用いた特産品の普及・開発に取り組む。

これら伊吹山の自然の恵みとも言える地産物について、道の駅等を拠点として「伊吹山ブランド」として発信し、エコツアー等において道の駅を組み込みながら観光客に提供して、地域経済の振興につなげる。